

2010年度 社会連携委員会活動

委員長 川本 俊弘（産業医科大学）

委員長		氏名	所属	役割
		川本俊弘	産業医科大学	総括
委員	1.	蘇 慧貞 Su, Huey-Jen	成功大学（台湾） National Cheng Kung University	台湾担当
	2.	柳澤幸雄	東京大学	相談役
	3.	熊谷一清	東京大学	北米担当
	4.	柳 宇	国立保健医療科学院	中国担当
	5.	Kim, Yoon Shin	韓国 Hanyang University	韓国担当
	6.			
	7.			
	8.			
	9.			
	10.			
活動概要		<p>【活動報告】 今年度は、台湾の台湾病態建築診断協会（日本のシックハウス診断士協会の台湾バージョン）からの提携提案に関する対応をしている。10月に台湾国高雄市にて同協会副理事長、他の関係者と会談し、同協会の概要について説明を受けるとともに、本学会の概要を伝え、情報の交換を行った。その結果、非公式にはあるが、基本線として提携する方向で合意し、理事会に打診した。 その結果、以下のような結果であり、今後この提携事業を推進するかどうか顧慮中である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 台湾に関しては、すでに、台湾室内環境学会と協定を結んでいる。しかしながら実際の交流となると、ほとんど出来ていない。これは、相手が悪いということではなく、我々の取り組みが不足していることが原因と考えられる。現時点で、室内環境学会がなすべきことは、新しい提携先を探るのではなく、台湾室内環境学会（韓国も同様）との交流を活性化することだと思われる。 協定内容の一つとして、共通のJournalの発行があげられている。非公式にはあるが、日韓台で共同してJournal発行を検討しており、台湾病態建築診断協会からの申し出を受けることは難しいと思われる。 一般論として、台湾国内の事情についても確認する必要があると思われ、台湾病態建築診断協会の会員は台湾室内環境学会会員と多くが重なっていると聞いているが、あくまでも別組織である。台湾病態建築診断協会とこのような話をするに当たっては、もう一方の当事者である台湾室内環境学会会員へきちんと筋を通して置く必要があるかと思われる。 <p>台湾病態建築診断協会とは 理事長は、高雄市議会議長が就いている。理事会は研究者が中心で、目的はシックハウス問題に関する消費者の啓発を行うことである。昨年度までの診断士合格者数は、398人、今年には500人を超える見込みである。合格者は、建築士、インテリアデザイナーが大多数であるが、医師や弁護士も含まれている。台湾政府は緑建材（環境に配慮し、かつ人に優しく、高性能な建材）の要件として9つの要件を挙げ、その7番目に、IAQを挙げている。建築研究所の外郭の組織で、政治力を高め厚生行政にも影響を高めるために活動中である。また、社会的認知度を高めるため、政府機関に働きかけている。まずは高雄市に働きかけ、その成功を梃子に中央政府に働きかける予定である。台湾の室内環境との関係および学会ではないNPOの教会との提携の意味している。両者の関係は、室内環境学会の学術成果を市場化するために必要であり、また、両者の連携は、研究成果の一般への普及のために必要である。学会は政府と連帯するものであり、協会は、市民と連携を図るものであるとしている。</p>		
会議開催回数		0回、随時メールにて		